

令和6年度 実務経験のある教員等の一覧

		(医療専門課程看護学科)			
授業科目名	授業科目概要	授業 時 数	教員		実務経験等
			専 任	兼 任	
1	栄養学	30		○	管理栄養士
2	病理学	30		○	口腔外科医師
3	薬理学	30		○	薬剤師
4	疾病と治療Ⅰ (脳・神経/運動)	30		○	内科医師 整形外科医師
5	疾病と治療Ⅱ (呼吸器/循環器)	30		○	呼吸器内科医師 循環器内科医師
6	疾病と治療Ⅲ (消化器/内分泌・代謝)	30		○	消化器内科医師 内分泌代謝内科医師
7	疾病と治療Ⅳ (血液・造血/アレルギー・膠原病・感染症)	30		○	内科(肝・血液)医師 内科(アレルギー・感染症)医師
8	疾病と治療Ⅴ (腎・泌尿器/女性生殖器)	30		○	腎・泌尿器科医師 産婦人科医師
9	疾病と治療Ⅵ (皮膚/眼/耳鼻咽喉/歯・口腔)	30		○	皮膚科医師 眼科医師 耳鼻科医師
10	医学概論	15		○	外科医師
11	公衆衛生学	15		○	歯科医師

12	情報と医療	看護としての専門性をより発揮するうえで「情報」とは何かを知り、医療における情報の「活かし方」と「まもり方」の両方を学ぶ。 患者にもっとも近いところで接する看護師は、そこから得られる様々な情報をもとに、患者や患者家族だけでなく、医療チームとコミュニケーションをとり、情報共有を図ることが重要となる。「情報」の特性を学び、新しい情報を取り入れ、よりよい意志決定に結びつけ、看護の実践に活かせるようにする。	15		○	診療情報管理士
13	社会福祉	社会の情勢が日々大きく変化しようとしている中で、看護師は社会の動きを幅広くとらえ、国や地方、法や政策、社会福祉や社会保障が何を行おうとしているのかについて学ぶ必要性が高い。看護の目的には人々が健康で生活をより良いものと向上を目指すことにあるため、疾病や精神の成り立ちやどのように生活をするかということを常に念頭に置き、社会福祉の概念を歴史的変遷から学び、福祉サービスを必要とする人々の生活困難と社会福祉の関係、社会福祉のあり方を学ぶ。	30		○	医療ソーシャルワーカー
14	関係法規	保険医療に関する基本理念、関係制度、関係する職種の役割を学び、生活者の健康を守るための基本的な法規と関係職種の役割・機能について学ぶ。	30		○	医療事務職(管理者)経験者
15	家族看護論	家族とはそもそも何だろうか。アドラー心理学では「地域」の概念を説明する中で「さしあたって自分が所属する家族」を地域の最小単位として挙げている。ということは健康問題を中核において地域の発展・支援を考える時、まず私たちは「健康な家族」を考えねばならない。したがって、本科目では家族本来のもつ力を発揮させ、問題解決能力を支援して高める方法を学び、さらに病と家族の苦悩と喜びについて理解を深めることを目的とする。	30		○	看護師実務経験者
16	看護学概論	「看護とはなにか」という看護の基本となる概念を学び、「看護とは」と探求し続ける姿勢を身につけ、看護の対象理解や看護倫理、看護教育、看護管理の基礎的な学習から進める。看護専門職としての役割と機能について理解を深め、保健医療福祉チームにおいて調整者としての役割が発揮できるように必要な知識を学ぶ。また、看護職者の倫理、看護職者の教育、現代における保健・医療・福祉・看護の動向についても学ぶ。	30		○	看護師実務経験者
17	看護理論と看護研究の基礎	看護理論は看護学のメタパラダイムを構成する4つの主要概念である人間・環境・健康・看護を記述し、関連づけてモデルに現し、説明している看護理論家の看護を学ぶ。本授業では専門職として看護を探究し、保健医療福祉チーム内で役割を発揮するために必要な能力について考える。また、看護職者の倫理、保健・医療・福祉における看護、現代における看護の動向について学び、継続教育へつなげる。さらに、看護研究の基礎について学び、看護研究の意義と方法について理解する。	30		○	看護師実務経験者
18	基礎看護技術Ⅰ	看護および看護技術とはなにかと、看護における基本技術について学びます。コミュニケーション技術は良好な援助関係を形成する上で必要であること、対象が人間であることを理解していきます。また、患者の安全・安楽を守る技術として、快適な療養環境の整備と感染防止対策について学び、基本的な技術の習得を目指します。	30		○	看護師実務経験者
19	基礎看護技術Ⅱ	人間にとっての「活動と休息」「清潔」「食事」「排泄」の意義や生理的なメカニズムを理解し、援助の種類と方法を学ぶ。日常生活とそのニーズ、自立困難な対象への援助方法、安全安楽な技術提供の重要性を理解し、基本的な技術の習得を目指す。	60		○	看護師実務経験者
20	基礎看護技術Ⅲ	ヘルスアセスメントの力を身に付ける意義を理解し、正確な身体計測およびバイタルサイン測定の方法を習得する。看護の役割を果たすためには基本的な知識および観察力の重要性についても意識できるようにする。また、正しい記録と報告の方法、さらには情報管理についても理解を深め、臨地実習につなげる。	30		○	看護師実務経験者
21	基礎看護技術Ⅳ	問題解決思考、クリティカルシンキングを基盤として行う一連の看護過程は、看護専門職として責任をもって看護を行う上で有用なツールであることを、すなわち看護過程を学習する意義を見出せるようにする。対象理解と個別的な看護実践の重要性について理解できるようにする。	30		○	看護師実務経験者
22	基礎看護技術Ⅴ	健康のレベルとニーズおよびその看護の特徴および時期に合わせた学習支援の意義について理解できるようにする。対象の発達段階や健康のレベルとニーズにより、学習支援の効果的な方法の違いを理解できるようにする。さらに媒体を作成することで、より具体的な方法と個別性を理解できるようにする。	15		○	看護師実務経験者
23	基礎看護技術Ⅵ	健康のレベルとニーズおよびその看護の特徴および時期に合わせた学習支援の意義について理解できるようにする。対象の発達段階や健康のレベルとニーズにより、学習支援の効果的な方法の違いを理解できるようにする。さらに媒体を作成することで、より具体的な方法と個別性を理解できるようにする。	60		○	看護師実務経験者
24	基礎看護技術Ⅶ	対象の身体をみて系統別にアセスメントできるように、問診・視診・触診・打診・聴診の基本技術を学習します。特に消化器系・呼吸器系・循環器系のアセスメントについて学び、アセスメントするために必要な情報収集ができるようになります。	15		○	看護師実務経験者
25	地域・在宅看護論概論Ⅰ	地域で暮らす人の生活を知り、「地域」の社会資源やその活用状況を評価し、地域包括ケアシステムの一員である看護師としての役割を考える。また、自助・互助の観点から、「ボランティア活動」をテーマに、その活動の意義や活動との繋がる方法を学ぶ。	30		○	看護師実務経験者
26	地域・在宅看護論概論Ⅱ	我が国の現状をふまえた地域・在宅看護の展望と今後の課題を学ぶ。また、在宅看護の対象となる在宅療養者とその家族の理解を中心に、対象が暮らす「地域」在宅での生活を維持するために必要な支援と医療ケアを必要とする在宅療養者への医療的支援である訪問看護について学ぶ。	30		○	看護師実務経験者

27	地域・在宅看護論方法論 I	対象である療養者と家族が在宅療養を選択した意味や思いを理解し、療養者・家族のセルフケア能力をアセスメントし、個別性が求められる看護援助方法を日常生活援助と医療的ケアを学ぶとともに、リスクマネジメントを含め療養者・家族の「暮らしの場」において継続可能な在宅看護技術や支援方法を学ぶ。	45	○		看護師(訪問看護師)実務経験者
28	地域・在宅看護論方法論 II	在宅で看護を受ける療養者の病状および療養生活の安定性に着目した在宅看護時の介入と対象である療養者と家族のさまざまな側面を統合し対象の暮らしに寄り添った在宅看護過程を理解する。	15	○		看護師(訪問看護師)実務経験者
29	成人看護学概論	成人看護学概論が対象とする「成人」とは、身体的および心理・社会的に成熟した人、すなわち「大人」である。そして、成人期は青年期、壮年期、中年期がありライフサイクルの中で最も長く、ライフスタイルや職業などに影響を受けて生活や健康観は多様である。そこで、成人期に見られる健康状態や健康問題を知り、健康な生活を育むための看護アプローチについて学ぶ。	15	○		看護師実務経験者
30	成人看護学方法論 I	成人期にある人の疾病・症状から臨床推理力を養うためには、クリティカルシンキング力、アセスメント力を向上させる必要がある。さらに疾病・症状が成人期の身体的・精神的・社会的側面に及ぼす影響を考えながら、看護師のセルフケア支援によって早期回復の促進、生活の再構築、セルフケア能力の向上を目指した、個別性を尊重した看護方法を学ぶ。	60	○		看護師実務経験者
31	成人看護学方法論 II	社会の基盤をなす一人ひとりの人間の生活・暮らしを理解するためには、個人の理解だけでなく、「家族」「集団」「組織」「地域」「グローバル」な視点で広く社会を捉える必要がある。さらに看護師は、社会の中での個人の健康や生活を理解して支援する役割が求められる。この単元では、社会を捉える視点と健康に生きる人への支援について学ぶ。	30	○	○	看護師実務経験者
32	成人看護学方法論 III	医療者にとって患者の人生最後の貴重な時間を共有だけでなく、診断時など早期な緩和ケアの重要性や患者が自分らしく生きることや「死」を迎えること、自己実現を実感できることを支援する機会となる。このような支援に必要な医療者としての看護観や死生観、人生観を認識し、がん看護と緩和における看護師の役割を学ぶ。	30	○		看護師実務経験者
33	老年看護学概論	高齢者の生きがいや生活の実際を知り、高齢者疑似体験や元気高齢者のライフストーリーをとおり、高齢者の特徴と健康生活を学んでいきます。また、高齢社会の現状や倫理的な問題の中から、高齢者の医療や福祉について考え、老年看護の役割や支援のあり方を学ぶ。	30	○		看護師実務経験者
34	老年看護学方法論 I	高齢者の定義は幅広く、また個々の生活様式や価値観も多様なため、高齢者を取り巻く家族・生活環境・ヘルスケアシステムとの関連も視野に入れ、よりよい方向を見出すために有用な看護の実際を学ぶ。また、対象の障害された機能を理解し、その人らしく生活するために必要な看護について具体的に学ぶ。	30	○	○	看護師実務経験者
35	老年看護学方法論 II	高齢者によくみられる疾患・症状を理解し、尊厳や倫理的課題、自己決定を含めた高齢者看護の本質的な課題を学ぶ。また、治療を受ける高齢者に必要な看護実践、家族を含めた看護や予防・指導教育の必要性を学び、高齢者のもてる力をいかした看護を展開していく。	30	○		看護師実務経験者
36	老年看護学方法論 III	人生の最終段階を支えるエンドオブライフケアは、老いや病を抱えながら地域で生活する人々の暮らし、家族や地域の人々とのかかわり、価値観や文化的背景をも含む総合的かつ長期的な支援であることと多様な生活の場の広がりを学ぶ。	15	○		看護師実務経験者

37	小児看護学概論	子どもと家族を尊重した看護を実践するための基礎的知識を身につける。視聴覚教材をもとに子どもの各期の成長発達と特徴を理解する。さらにこの科目では、グループワークやロールプレイを通して、子どもと家族を取り巻く社会情勢や環境、子どもの権利、保健統計等について討論する。そして子どもと家族を多面的に捉え、子どもと家族の安寧を保つための看護について考え、学生個々の意見をまとめ、方法論につなげることを目指す。	30	○		看護師実務経験者
38	小児看護学方法論 I	健康障がいをもちながら入院・外来・在宅で療養している子どもと家族に対する看護の方法を身につける。特にこの科目では、子どもに多い疾患・症状を理解する。疾患は、小児科臨床医による診断・治療等の実際を学ぶ。さらに症状は、子どもによくみられる症状のある事例を複数用い、疾患や症状、成長発達や生活背景等に合わせた援助について個人及びグループで考え討論することを通し、子どもと家族への多様な個別の看護の方法について理解を深める。	30	○	○	小児科医師 看護師実務経験者
39	小児看護学方法論 II	概論、方法論 I、領域横断科目等で身につけた基礎的知識及び看護の方法を統合し、学生個々の子ども観を養う。特に基礎的知識をもとに、さまざまな健康レベルや生活背景にある子どもと家族が最善の健康と生活を維持できる看護の方法について個人及びグループで考える。さらにこの科目では小児看護学実習に向け、子どもの日常生活援助やバイタルサイン測定等をモデル人形や視聴覚教材等を活用して実際の場面を予測しながら学習し、小児看護技術における実践能力を身につける。	30	○		看護師(小児科看護師)実務 経験者
40	母性看護学概論	この授業では、母性看護を実践するうえでの考え方や方向性を理解するために、母性看護の基盤となる概念を学びます。また、母性を取り巻く社会の現状や母性看護の対象を理解し、次世代の健全育成のための看護を学びます。	30	○		看護師・助産師実務経験者
41	母性看護学方法論 I	この授業では、妊娠・分娩・産褥期と早期新生児の正常経過の基礎的知識およびアセスメント、さらに対象の生活を考慮した保健指導や看護技術について、講義や演習を通して学びます。	45	○	○	看護師・助産師実務経験者
42	母性看護学方法論 II	この授業では、妊娠・分娩・産褥期および新生児の正常な経過を理解したうえで、逸脱した状態とその原因、またその後起こりうる問題を捉え、健康状態のアセスメントと必要な看護について学びます。また専門性の異なる職種との協働についても理解を深めていきます。	30	○	○	看護師・助産師実務経験者
43	精神看護学概論	現代社会における精神保健や精神医療・精神看護のニーズの高まりを把握し、こころを健康に保てるためには、疾患との関係、ライフサイクルやライフイベント、多くの結びつきを考えていく内容である。生きにくさを理解するためにも、歴史的な変遷から現代の施策を学ぶことで精神看護学の課題を実践する者としての姿勢を高める。また看護専門職としてだけでなく、人としての倫理観や人権擁護についても考える。	15	○		看護師実務経験者
44	精神看護学方法論 I	精神看護学におけるコミュニケーションの重要性と医療従事者としてのコミュニケーションの重要性を学ぶ。精神看護学の対象に限らず、さまざまな方への関わりや対象への看護や人間関係の成立、こころの動きも考え、他者だけでなく、自己に対する理解が看護師を目指すには重要になることを学ぶ。「その人らしく生きる」ということは何かを常に意識しながら、ケアすることができるように事例を含めて学習することで相手の立場になって考える気持ちの育成を目指す。	30	○		看護師実務経験者
45	精神看護学方法論 II	精神障害の診断と分類、治療・検査・処置などを医師から学び、対象への医学的理解を深める。精神障害者への入院中の治療的関わり、受けとめや支援、そして自立する方法の発展、地域で生活する方法や保健福祉サービスとの関連づけをして学ぶことができるような看護を考える。「生きにくさ」や「偏見」といったスティグマの実際を受けとめ、精神看護学として対象、家族への影響、治療に伴う検査やケア、人対人として関わり方を学ぶことができる。	30	○	○	精神科医師 看護師実務経験者
46	健康診断と保健指導	個人・集団の健康増進や疾病予防のための行動変容を促す理論やモデルを活用し、保健指導の企画・実施・評価の一連のプロセスを修得する。また多様な医療、保健、福祉の場やさまざまなライフステージにおける健康教育のあり方及び健康診断時に確認される観察内容について学ぶ。	30	○		看護師実務経験者
47	専門職連携教育	患者は疾患や障害によりさまざまな苦悩や生活上の不便を抱えながら日常生活を送っており、その多くは病院や自宅・介護施設などを往来している。どこにいても必要なケアが切れ間なく、受けられるような継続性が重要となる。その中で、病院内・在宅という「暮らしの場」でも、異なる専門職が対象の情報や関わり方の方向性、ゴールを共有しながら協働していくという、多職種連携の関係作りを意図的に行っていくことが重要であり、ここでは他の専門職の専門性を理解し多職種との連携方法を学ぶ。	30	○		看護師実務経験者
48	周術期と看護	周術期は術前・中・後の全期間を含み、各ライフステージでの手術の適切な時期・リスク、手術後の経過は異なる。また、手術を受ける患者は手術の種類・目的・術式・緊急か計画的かによって手術に臨む姿勢も変化する。患者・家族は治療に期待する一方で、手術による機能低下や障害、予後への不安をかかえている。看護師は手術侵襲による生体の回復過程を理解し、科学的根拠に基づき安全・安楽が確保される援助をする必要がある。在院日数短縮化のなかで、術前から退院後の患者の生活の質の維持・向上のためにも外来や地域の病院、家庭や生活とのつながりが重要となる周術期における看護を学ぶ。	30	○		看護師実務経験者
49	薬物と看護	薬理学で学んだ薬の知識をふまえ、各発達の視点で薬物療法を受けている患者に適切な看護が実践できる能力を養う。特に健康問題を解決するために薬物療法を受けている患者の(各発達の視点で)薬剤服薬による効果と副作用、薬物の服用方法と管理について理解する。さらにこの科目では薬物療法により変化する患者の健康状態や治療ごとの具体的な支援方法を学ぶことを目的とする。	30	○		看護師実務経験者
50	看護実践と法制度	これからの看護は法制度との関係がますます深くなり無関心ではいられません。法制度を理解して、医療従事者としての責務を果たすことが求められることから、ここでは看護師が行う看護実践に必要な法制度を学ぶ。	30	○		看護師実務経験者
51	臨床判断と看護の実践	看護師には、ライフステージにおける健康上の患者のニーズを把握し、患者の反応によって何が重要なのかを見極める臨床判断能力が求められる。この科目では「看護師のように考える」ことを目指し、看護師が臨床で患者の状態の変化に「気づき」「解釈」し、実践しながら振り返る過程を通し、経験知を積んでいくことで看護実践できる基礎的能力を身につけるものとする。	30	○		看護師実務経験者

52	看護管理	看護管理の概念と実践に必要な管理の基本について学び、看護サービスを提供するうえで、看護管理がどのように看護の質に影響するか考える。また、講義での学びを、統合実習等の臨床実習に繋げられるよう、施設における看護管理の実例を含め講義する。	15		○	看護師(管理者)実務経験者
53	看護研究	1年次の「看護研究と基礎」で学んだ研究の一般的知識を想起し、研究をまとめることで今後の看護実践を研究的な態度で行う能力を養う。看護実践で学んだ看護体験を客観的にふり返り、看護理論や文献を活用しながら看護の専門性や独自性を追求し自己の看護観の基盤を形成する。また、論文作成・発表・評価を通して思考力・判断力・表現力を高めることを目指す。	30			
54	災害看護	災害発生は突然起こりひとたび起こると人々の健康・生活に大きな影響を与え通常の医療体系では対応できず特殊な医療・看護が必要になる。災害の種類特徴を理解し看護職が果たすべき役割と行政・地域の支援体制などを教授し災害急性期から慢性期・回復期に至る災害サイクルに沿った看護を理解する。基礎知識を利用し学生自身が災害発生時にトリアージや応急処置について実施することを学ぶ。	15		○	看護師実務経験者
55	医療安全	急激な変化をとげ、複雑さが増す医療現場の中で、質の高い医療・看護を守る医療職の一員として基本的な倫理観はもとより、医療安全に関する基礎的な知識、技術から実践につなげる能力を積極的に習得させる。また事故発生のメカニズムやリスクマネジメントの重要性を学び、組織の一員であることを自覚するとともに医療事故に対する対策や自己で回避する方法や環境	30	○	○	看護師実務経験者
56	基礎看護学実習 I	対象の生活の場を理解し、原理原則に基づいた日常生活援助が実施できることを目指す。	30	○	○	看護師実務経験者
57	基礎看護学実習 II	対象を総合的に理解し、看護過程の展開を実施する能力を養うことを目指す。	60	○	○	看護師実務経験者
58	地域・在宅看護論実習 I	在宅療養者とその家族が暮らす「地域」というコミュニティを知り、その地域特有の文化や地域活動の実際を、ボランティア活動を通して体験する。その中で、医療者として、「地域共生」を目指し、自助、互助について考えを深め、多職種連携・協働する方法を理解できる事を目指す。	30	○		看護師実務経験者
59	地域・在宅看護論実習 II	地域コミュニティの中で在宅療養生活を送る対象の様々な価値観を理解し、QOLの維持・向上を考えた日常生活援助・支援を看護の実際を体験する。学生は、療養者の話を傾聴しながら感性を磨き、知識を絡めて体験を経験に変える指導と学生の看護観が更新できるよう、一人ひとりの学生のレディネスを捉えた丁寧な助言を行う。	30	○		看護師実務経験者
60	地域・在宅看護論実習 III	訪問看護ステーション並びに通所リハビリテーションの指導者、スタッフのもとで学生指導を行う。在宅実習では、療養者並びに複数に及ぶ様々な世代、生活背景の家族の介護力のアセスメントや、心情に触れるアセスメントとも多く、若い世代の学生には困惑することも多いと考え体験を経験につなげるよう講義内容を想起し、学びにつなげ感性にも働きかける。	90	○		看護師実務経験者
61	成人看護学実習 I	回復期にある対象の特徴を理解し、看護に必要な知識・技術・態度を習得し、健康回復に向けた看護実践ができる能力を養う。	45	○	○	看護師実務経験者
62	成人看護学実習 II	慢性期・終末期にある対象の特徴と家族を理解し、看護に必要な知識・技術・態度を習得し、症状の緩和、QOLの向上に向けた看護実践ができる能力を養うことを目指す。	90	○	○	看護師実務経験者
63	老年看護学実習 I	健康障害をもつ老年期にある対象を総合的に理解できる能力を養うことを目指す。	90	○	○	看護師実務経験者
64	老年看護学実習 II	老年期にある対象を総合的に理解し、対象と家族の望む生活を考えた継続性のある看護が実践できる能力を養うことを目指す。	90	○	○	看護師実務経験者
65	小児看護学実習	さまざまな健康レベルにある子どもと家族を取り巻く環境及び成長発達を捉え、子どもと家族に寄り添う看護を展開する能力を養うことを目指す。	135	○	○	看護師実務経験者
66	母性看護学実習	母性のライフサイクルにおける特徴を捉え、母性看護に必要な知識・技術・態度を統合し、保健指導を含めた基礎的能力を養うことを目指す。	90	○	○	看護師実務経験者
67	精神看護学実習	精神障害をもつ対象を理解し、精神の健康回復、社会生活に適応するための援助について学ぶとともに、自己洞察できるための能力を養うことを目指す。	90	○	○	看護師実務経験者
68	統合実習	看護チームの一員として、対象に主体的に援助できる看護実践能力を養うことを目指す。	90	○	○	看護師実務経験者
		68 科目	2565			